



▲ 山崎正董博士像
(館内1Fロビー)

山崎記念館 (登録有形文化財)

熊大病院の敷地内にある山崎記念館は、山崎正董学長(官立熊本医科大学)の30年にわたる医学教育に対する功績を記念し、昭和6年(1931年)に山崎記念図書館として建立されました。その後、臨床講義室や医学部附属衛生検査技師学校等として使用され、昭和56年に改修工事を行い、名称を山崎記念館と改めました。現在は展示や研修会場として使用されており、今後は新型インフルエンザが流行した場合の発熱外来としても使用する予定です。

CONTENTS

特集 P2

「新型インフルエンザについて」

新任診療科長紹介 P3
新設寄附講座紹介

知っ得! 納得! P4

C型肝炎
Q&A

診療科・部門紹介 P5

消化器内科
中央採血室

がん診療連携拠点病院 P6
地域医療連携センター

看護部だより P7

ボランティア紹介

掲示板 P8

TAKE FREE

熊大病院
広報誌

病院敷地内全面禁煙について

この度、熊大病院では、病院敷地内にあります基礎医学研究棟(医学部)裏の喫煙スペースを平成21年9月1日から廃止し、病院敷地内にある医学部等の建物も含めて敷地内全面禁煙となりました。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



【理念】

本院は、患者本位の医療の実践、臨床医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

【基本方針】

- ・ 患者の主訴・希望・期待・要求を尊重する医療の実践
- ・ 適切で安全安心と高信頼性の医療サービスを仁恵の心で提供
- ・ 優れた医療人の育成
- ・ 先進医療の開発と推進

【患者の権利】

- 本院はリスボン宣言に基づき、患者がもつ次の権利を認識し、それを守ります。
- ・ 良質な医療を受ける権利
 - ・ 担当の医師、病院、保健サービスを自由に選択する権利
 - ・ 十分な説明を受けた後に、治療を受け入れるか否か自由に決める権利
 - ・ 自身の情報を得る権利
 - ・ 自身の情報について秘密が守られる権利
 - ・ 健康教育を受ける権利

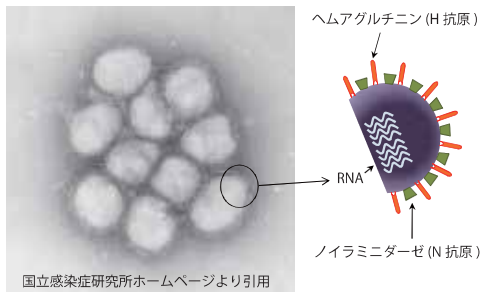
＜看護師募集中＞
あなたの笑顔が熊大病院の顔です。
担当：熊大病院 人事・労務担当
096-373-5913

今年の春、メキシコで忽然と姿を現した新型インフルエンザが、瞬間に世界中に感染拡大したのはご存知の通りです。今回の新型インフルエンザは、もともとブタで流行していたインフルエンザウイルス遺伝子 (RNA) の一部が、トリやヒトのウイルス RNA の一部とそっくり入れ替わり、抗原性が大きく変化した結果 (遺伝子再集合による抗原不連続変異と呼ぶ)、新しいインフルエンザウイルスとして生まれ変わったものです。

ヒトは、このウイルスに対して集団免疫を持たないため、容易に感染が拡大するのです。インフルエンザウイルスは、図1に示すように、8つのRNAの束が外殻で覆われ、外殻にはハム

アグリチニン (H抗原) とノイラミニダーゼ (N抗原) と呼ばれる2種類の蛋白が、トゲのように突き出しています。

図1. インフルエンザウイルスの構造



国立感染症研究所ホームページより引用

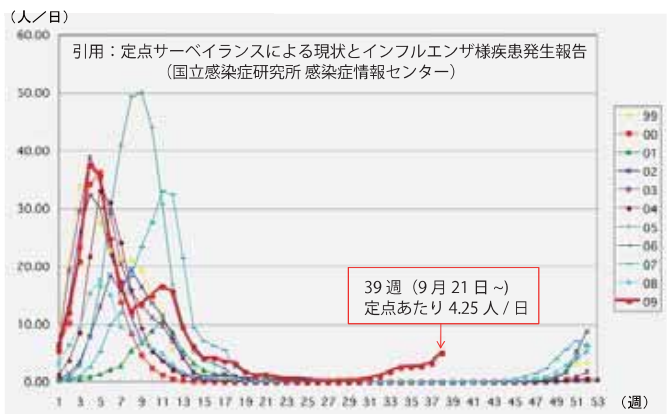
この“突起”は、ウイルスがヒトに感染するために必須ですが、逆にワクチンで“突起”に対する抗体ができると感染は防げますし、タミフルやリレンザはノイラミニダーゼの働きを抑えることで感染を防ぎます。

ヒトに感染するインフルエンザはA型、B型、C型の3種類が知られていますが、大流行するのはA型です。A型は、16種類のH抗原と9種類のN抗原の組み合わせにより、実に144種類もの亜型に分類できますが (図2)、ヒトに親和性の高い亜型は、H1~3、N1~3に限られるようです。今回の新型インフルエンザは、H1N1亜型を示し、強毒性のため恐れられていたトリ由来のH5N1ではありません。H1N1亜型のウイルスは、過去に大流行 (パ

図2. インフルエンザAの亜型



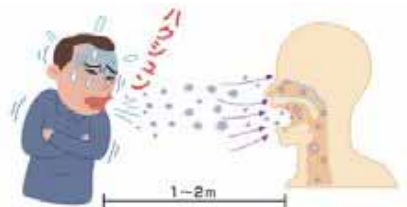
図3. 新型インフルエンザ発生状況



ンデミック) を起こし、“スペインかぜ”あるいは“ソ連かぜ”と呼ばれていますが、今回の新型ウイルスは、これらと区別するために“パンデミック (N1H1) 2009” (WHO) と呼ばれています。

日本における最近の新型インフルエンザの発生状況を図3に示します。このグラフは、インフルエンザ流行状況を調査するために、あらかじめ定められた医療機関 (定点) において、1日に何人のインフルエンザ患者が訪れたかを週毎に集計したものです。過去10年間の季節性インフルエンザの発生動向と比べますと、本来患者が発生しない夏場に患者数が増加していることがわかります。39週 (9月21日~) で、定点当り1日に4.25人の患者が来院し、全国で約24万人の患者が発生したと推計されています。

図4. インフルエンザは飛沫感染する



今後、冬場に向けて、この流行曲線がどのようなカーブを描いていくか全く予断を許さない状況が続いていますので、蔓延期に備えた準備を怠り無く行う必要があります。インフルエンザウイルスの感染経路は主に飛沫感染ですが (図4)、ウイルスが付着した手指を介した接触感染もあります。感染を防ぐには、感染者との距離を1~2m保つこと、感染者 (疑い含む) はマスクを装着すること、標準予防策 (手洗いや咳エチケット) の励行などが効果的です。もし感染した場合は、個室隔離や1週間程度の自宅静養で周囲との接触を最小限にし、他の人にうつさないようにします。また、新型インフルエンザにはタミフルやリレンザが有効で、治療あるいは予防投与として使用されています。

これから、本格的な冬を迎え、更なる流行も予想されます。今後も、新型インフルエンザの情報には十分ご注意の上、慌てず落ち着いて適切な対応を心掛けて下さい。



新任診療科長紹介

泌尿器科 教授 江藤 正俊

平成21年6月1日付けで熊大病院泌尿器科の教授に就任致しました。当科の診療方針につきましてご説明させていただきます。

基本方針は腎尿路性器癌の診断と治療を診療の柱として、エビデンスに基づいた癌治療を進めるだけでなく、厚生労働省研究班を中心とする臨床試験等にも積極的に参加し、臨床的エビデンスの確立にも努めたいと思います。

手術においては、これまで泌尿器科領域の各種開放手術ならびに腹腔鏡手術を多数行って参りました。特に患者の低侵襲医療に対する要望は強く、腹腔鏡手術には力を入れています。腹腔鏡下の腎、副腎手術だけでなく、前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘徐術も開始いたしました。その他の低侵襲治療として、前立腺肥大症に対する蒸散手術、尿路結石症に対する尿管鏡下レーザー碎石術も開始いたしました。臨床研究においては、これまで泌尿器癌に対する免疫細胞療法を主なテーマとして、進行腎癌患者

に対する樹状細胞療法を立ち上げるとともに、前立腺癌、膀胱癌等に対する免疫療法の基礎的臨床的検討を行って参りました。熊大病院におきましてもこれまでの研究の流れを継続、発展させて、腎癌、膀胱癌、前立腺癌患者に対するペプチドワクチン療法を開始する予定です。

熊本県の都道府県がん診療連携拠点病院として、関連病院と連携を取りながら、地域の医療に貢献し、安全かつ思いやりのある医療を展開していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いたします。



新設寄附講座紹介

循環器臨床研究先端医療寄附講座

日本人の死因の常に上位を占める疾患として心疾患と脳血管疾患が挙げられます。高血圧はこれらの疾患の発症を増加させる危険因子のひとつです。本講座は日本に不足していると言われる循環器領域での臨床研究データを集め、その結果を診療に役立てることを目的に本年4月より設置されました。

高血圧には作用機構の異なる数種類の治療薬があり、それぞれに特徴的な臨床効果があることが知られています。本講座ではアンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)と呼ばれる高血圧治療薬の臨床効果を他の治療薬と比較するためATTEPT試験と呼ばれる大規模臨床研究を手掛けています。

また、本講座では遺伝子ターゲティング技術を用いた最先端の研究も行っています。例えば遺伝

子操作を施した細胞を用いた研究並びに実験動物を用いた最先端の基礎研究も行う予定です。

本講座での研究・教育は医学薬学研究部循環器病態学並び

に医学薬学研究部生体機能薬理学との連携のもとで実施されます。

また、若手研究員の教育・指導にも重点的に関わっていきたく考えています。



安田 修 特任准教授(左側から2番目)とスタッフ



【教室構成】

特任准教授：安田 修

特任助教：山本英一郎

事務員：上野信恵、原田香織、寺崎賀子

恵和会イベント

財団法人恵和会の助成により開催されている院内のイベント等をご紹介します。

ちっちゃな夏祭り

平成21年8月25日に入院されている0歳～15歳までのお子様へ、夏祭り気分を楽しんでいただくために開催されました。



敬老の日

平成21年9月18日に敬老の日の記念行事として、病院長と看護部長から65歳以上の入院患者様へ特製バスタオルがプレゼントされました。



祝敬老の日と記載されたバスタオル

お知らせ! クリスマス・イルミネーション

平成21年11月初旬から平成22年1月末まで院内「憩いの広場」にてイルミネーションの点灯を予定しています。(点灯時間は17時30分から22時まで)





Q

C型肝炎とはどのような病気ですか?

A

C型肝炎ウイルス(HCV)の感染によって、肝臓に炎症が起きる病気です。C型肝炎は特徴的な症状が出にくく、風邪に似た症状で、体がだるい、疲れやすいという程度です。自覚症状が現れにくいため、病気に気付かずに適切な治療を受けていない人も少なくありません。HCVは成人で感染しますと、7~8割の確率で慢性化(キャリア化)してしまい、放置しますと慢性C型肝炎、肝硬変、肝がんへと進行していきます。日本での肝がんによる死亡者の70%強は、HCV感染が原因です。

HCVキャリア(ウイルスに持続感染している人)は、日本で200万~250万人は存在すると言われています。九州でのキャリア率は、10~20歳代では0.2%前後と低いですが、50歳代で2%台、60歳代で3%台と高くなっています。

HCVは血液を介して感染します。実際にHCVキャリアの2~3割は、以前の輸血や血液製剤などで感染しています。HCVが1989年に発見されて以来、輸血や血液製剤用の血液も厳重にチェックされていますので、現在ではほとんど感染する危険性はありません。一方、残りの多くの方では、感染経路がよく分かっていません。以前には行われていた注射器や注射針の使いまわしに原因があると考えられますが、現在では使い捨てを使用しますので心配はいりません。

従って、新たにHCVキャリアになるリスクは極めて低いと考えられます。但し、最近、若い人の中でタトゥー(入れ墨)やピアスが流行していますが、その際にHCVに汚染された針から感染する危険性があり、注意が必要です。

Q

C型肝炎ウイルス(HCV)の検査はどこで受けられますか?

A

県内11カ所の保健所と、645の指定医療機関が対応しており、県民であれば無料でHCVの検査を受けることができます。特に中高年者で、これまで一度もHCVの検査を受けたことがない方は、ぜひ検査を受けましょう。

問い合わせ先:
 熊本県庁健康危機管理課
 ☎096-333-2783
 熊本市保健所
 ☎096-364-3189
 熊本県ホームページも
 ご参照ください。
<http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/kanen-kennsa.html>

Q

C型肝炎の治療法にはどのようなものがありますか?

A

C型肝炎の治療の目標は、炎症を抑えて病気の進行や肝がんの発生を抑制することです。その中で最も進んだ治療法は、週1回のペグインターフェロン注射と経口抗ウイルス薬の組み合わせです。HCVには、日本のC型肝炎患者さんの7~8割を占めるI型と、2~3割を占めるII型の2つのタイプがあります。薬が効きにくいI型であっても、最新の治療法では約6割の確率でウイルスが消えます。薬が効きやすいII型の場合だとI型に比べ、かなり短い期間で効果が表れ、約9割の方は完治します。

ただ、患者さんによっては、合併症や副作用のために最新の治療法が行えない、あるいは中断せざるを得ないケースがあります。そのような場合、ウイルスが消えないまでも、炎症を抑えるさまざまな治療法や効果的な食事療法があります。

いずれの治療であれ、肝炎を落ち着かせることができれば、C型肝炎から肝硬変や肝がんへの進行を抑えることができます。

一方、熊大病院を中心に、地域の中核病院、専門医療機関、かかりつけ医、熊本県、医師会などが一体となった「肝疾患診療連携ネットワーク」が構築され、県内のどの地域でも最新の肝疾患の診療を受けることができるようになりました。

熊大病院は本年5月に熊本県肝疾患診療連携拠点病院に指定されました。これを機会に熊大病院に肝疾患センターが設立され、肝疾患相談室で肝臓病についてのご相談をお受けしていますので是非ご利用下さい。
 ☎096-372-1371
 詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/hepatolo/>

Q

治療するためには、どれくらいの費用がかかりますか?

A

従来は、健康保険を適用しても100万円を超えるケースがあり、患者さんにとって大きな負担でした。そのようなことから、昨年度から「肝炎インターフェロン治療医療費助成制度」が始まりました。市町村民税額に応じ患者さんの負担分を月額1万円、3万円、5万円のいずれかとし、それを超える治療費を国と県で負担する制度です。最新の治療は通常48週間行いますが、ウイルスが消えるのに時間がかかる人もいるため、条件を満たせば、72週間まで治療を延長しても助成を受けることができます。

問い合わせ先:
 熊本県庁健康危機管理課
 ☎096-333-2783
 詳細は熊本県ホームページを
 ご覧ください。
<http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/kanen-chiryohi.html>



消化器内科では食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝胆膵などのすべての消化器疾患を網羅し、臨床経験豊富な専門医が検査や診療にあたっています。

具体的には、超音波内視鏡、拡大内視鏡、小腸内視鏡、胆道内視鏡、カプセル内視鏡などの特殊な内視鏡検査による精密診断、内視鏡的ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術 (EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)、内視鏡的乳



▲ カプセル内視鏡

頭括約筋切開術 (EST)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術 (EPBD)、食道胃静脈瘤硬化療法・結紮術などの先端的な内視鏡的治療、肝臓がんに対するラジオ波焼灼術 (RFA)、肝動脈塞栓術、リザーバー動注化学療法などを駆使した最新治療、慢性肝炎に対する抗ウイルス療法、難治性消化器癌への抗癌剤治療、炎症性腸疾患の免疫抑制療法など、幅広く精力的に診断、治療に取り組み、十分な成果をあげています。

また、先駆的な治療を患者様に受けていただけることも特徴の一つとして挙げられます。

例えば、肝癌に対する癌ワクチン療法を導入しま

した。炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎の劇症型に対しては、免疫抑制剤を使用しています。一方、まだ国内で認可されていない新薬に対する治験 (国に認められた臨床試験) にも積極的に参加し、多くの患者様にご案内しています。

このように、消化器内科では多岐にわたる消化器疾患に対して、最新で最先端の治療を受けることが可能です。

さらに本年5月には熊本県の肝疾患連携拠点病院に当院が指定され、その中で肝疾患センターについては当科がその中心的役割を担っており、肝疾患診療のみならず、肝疾患についての患者様からの相談についても対応を行なっています。



佐々木 裕 教授 (前列中央) と消化器内科スタッフ

中央採血室

本院の外来を受診された患者様の大半が訪れることとなる場所の一つが中央採血室です。

本年2月23日にリニューアルした本院中央採血室には、採血・採尿の自動受付、採血整理券の自動発行、尿コップへのバーコードラベル貼付、全自動採血管準備装置といった最新式の採血・検尿システムが導入されました。その他にも、待合室に採血の呼び出しや待ち時間を確認するための大型テレビ画面 (3台) の設置、プライバシー保護に配慮した仕切り付き採血台の追加、傘立てや手荷物置き場の増設、一採血一手袋としての感染対策など、御利用の皆様にとってより良い環境を提供するよう努めております。

日々8ヶ所の採血ブースに検査技師、看護師、医師が立ち、混雑の解消に努めておりますが、

9:00 ~ 12:00 に採血に訪れる患者数が500人を越える日も珍しくないことから、待合室でかなりの時間を費やしていた



採血・採尿受付機 正面 ▶



▲ 大型テレビ画面

採血の様子 ▶

だけ場合がどうしても生じております。特に、診療科の予約時刻に余裕があっても、患者様が朝一番に採血室に集中してお越しになっていることが、このような混雑の一因であるようです。

この待ち時間対策につきましては、現在患者サービス委員会を中心に病院を挙げて対策をいろいろ講じつつあります。ご来院の際には、ご自身の採血予約時間を十分把握していただき、診察終了後採血を行う場合には、できればピークの時間帯を避け、診療科の予約時間に合わせて中央採血室にお越しいただくなど、この件に関しましてご理解とご協力のほどを、よろしくお願ひいたします。





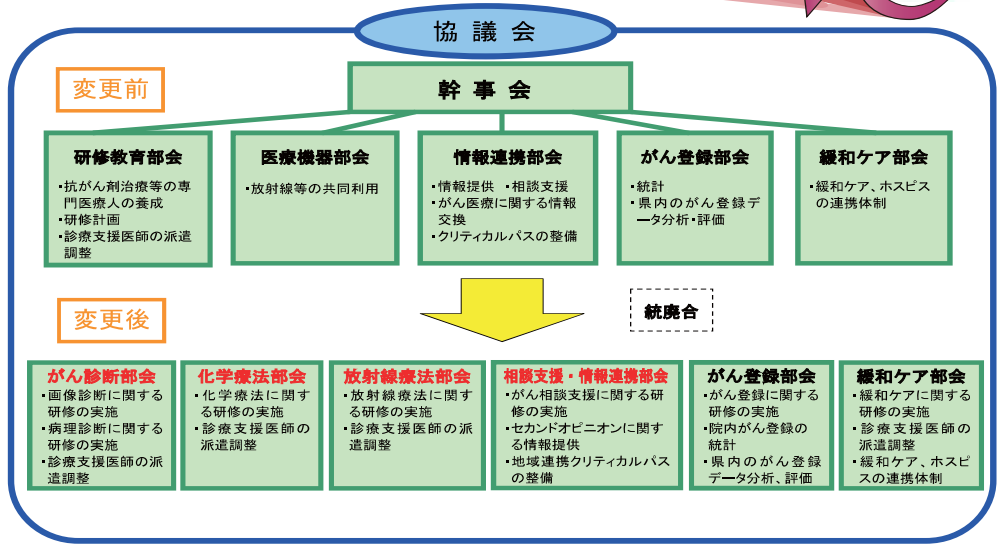
がん診療連携拠点病院

部会の再編成について

がん診療連携協議会の部会が再編成されました。

平成20年3月1日付けの厚生労働省からの通知により、化学療法の提供体制の整備等、がん診療連携拠点病院の整備に関する指針が改正されました。この新たな指針に対応し、更なる機能強化に向けた検討を進めるため、がん診療連携協議会の部会体制について、平成21年5月1日より従来の5部会制から新たに6部会制に組織体制の見直しを行いました。

今後も、地域におけるがん診療の中心的な病院として、一層努力して参ります。



地域医療連携センター

地域医療連携センターは、地域との連携を担う部署として平成13年に設置され、専任の看護師とMSW(メディカル・ソーシャルワーカー)、事務の担当者が以下の業務を行っています。

- ① 各診療科の主治医・看護師と一緒に、地域の医療・福祉機関の皆様のご協力を得て、入院患者様の退院支援、外来患者様の在宅療養支援
- ② 疾病に伴って生じる問題や各種制度利用に関する相談
- ③ 地域医療機関へ診療のご案内、受診報告やFAXによる受診予約など

退院支援・在宅療養支援

昨今の医療界の流れから、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、療養型病院など、病院の役割の明確化が求められ、それに伴い、以前に比べると本院の入院期間は短くなっています。そのため、退院後の生活をイメージして入院早期からの取組みを、患者様・ご家族と一緒に行うことが必要になります。例えば、「本院から直接在宅ではなく、転院先を検討する」、「在宅療養のために、かかりつけの医師、訪問看護師、保健師、ヘルパーなど、地域でのサポート体制を検討する」、「介護保険を申請する」などがあります。

本院では、主治医、看護師から当部署へ退院支援依頼があり、院内の各部署と連携しながらそのお手伝いをさせていただき仕組みになっています。患者様・ご家族の思いを確認し、地域の医療機関、介護保険などの社会制度や社会資源につなぐための連絡・調整を行います。

患者様が、安心して療養生活を送ることができるように、地域スタッフとの連携をより一層強化していきたいと考えています。

相談業務

病気によって生じる心配事や不安なことについての解決のお手伝いができるようご相談をお受けしています。例えば、「手術をする予定だが医療費が心配」、「訪問看護や介護保険など社会資源について知りたい」、「他の病院の情報が知りたい」などございましたらお気軽にご相談ください。

料金は無料となっております。守秘義務を厳守いたします。

お問い合わせ

地域医療連携センター

月～金曜日（祝祭日除く）8：30～17：15

☎ 096-373-5717、5766

地域連携業務

本院の役割である特定機能病院（急性期病院）としての高度で先進的な医療をより多くの人々に提供できるよう、また患者サービスの向上となるよう取り組んでいます。

当部署を通しての入院の受け入れは行っていないが、「どの診療科に受診してよいか分からない」、「セカンドオピニオンを受けたい」など、受診に関する相談をお受けし、診療科との橋渡しを行い、反対に他の医療機関へのセカンドオピニオン、外来受診のための連携も行います。紹介元の医療機関よりFAX予約された患者様の特典として、待ち時間が少しでも短縮するよう取り組みを始めました。また紹介元への受診報告を行っています。

まだまだ地域連携に関する取り組みは不十分ですが、今後一層の努力を重ねていきたいと存じます。今後ともよろしくお願いいたします。





看護部だより

10月に院内認定のIV(静脈注射)指導ナースが89人誕生!!

看護部では、今年4月から、本院の「看護師・助産師の静脈注射実施基準」に基づき、IVナース(※静脈注射を行う看護師)の育成を開始しました。これは質の高い医療を効率的に提供するために、看護師による静脈注射の実施を厚生労働省が正式に認めたことによるものです。実施するには、看護師自身の知識・技術が伴った上で責任を取れる範囲で行うことが前提となります。IVナースの育成は、まず始めに昨年度新人看護師の技術指導を担当した看護師(副看護師長・感染リンクナース)を教育し、IV指導ナースとして認定します。その後、認定されたIV指導ナースは、それぞれの部署の看護師の技術指導・評価を行い、新たなIVナースを育成することとなります。



静脈注射を行うIVナースには、ただ血管に留置針を挿入するのではなく、「薬剤を体内に注入する」という観点から、より専門的な知識と技術、そして高い倫理性が求められます。そのため、IV指導ナースの教育は、看護部で作成した「末梢静脈留置針での点滴与薬シミュレーショントレーニングマニュアル」に基づいて、基礎から丁寧・確実に行いました。静脈留置針挿入の技術教育以外に、静脈注射に必

要な知識として「静脈注射実施基準と法的責任・倫理」「解剖・生理」「薬理作用・副作用」「安全・感染対策」「緊急時の対応」についての5時間の講義を、対象者全員が受講できるよう、同じ内容のものを2度実施しました。また、講師には看護師だけでなく医師や薬剤師など他職種の協力も得て幅広く行いました。



そして、9月には、その知識と技術の習得を確実にするために筆記試験を実施しています。久しぶりに筆記試験を受験した看護師達は、緊張した面持ちで全員真剣に取り組んでいました。この筆記試験に合格すると病院長から認定証とバッジが授与され、いよいよIV指導ナースが誕生し、院内での活動開始となります。さらに、これらIV指導ナースの指導の下、来年3月には300人のIVナースが誕生する予定です。



このような教育体系に基づいた認定システムは、患者様に安全・安心の医療を提供するためにも大変意義深いものであると考えております。



ボランティア紹介

小児病棟ボランティア「たんぽぽの会」 会長 吉村留美

『子ども達に笑顔と楽しい時間を届けたい!』

子どもがある日突然病気になって入院すると家族の生活は、一変してしまいます。

私たち「たんぽぽの会」は、入院している子ども達とご家族のために少しでも役に立ちたいという思いから、1993年に熊本大学医学部附属病院の小児病棟の中で誕生しました。それから16年が経ち現在も約30人のボランティアが活動しています。



10グループあります!

- 子どもたちへのサポートとしては、「たんぽぽ幼稚園」、「水曜親子での遊び」、「日曜遊びの会」、「パネルシアターの制作と実演」、「図書貸し出し」、「家庭教師会」、「音楽会の企画」があります。
- ご家族へのサポートとしては、「おしゃべり会」と「図書貸し出し」があります。
- 退院後のサポートとしては、「陽だまりの集い」と子どもを亡くした親の会「はちぞうの会」があります。

笑顔のリレー!

子どもは、病気であっても、日々、成長・発達をしています。「遊び」を通していろいろなことを学び、成長しています。「遊び」は、心の栄養です。遊んでいると、子ども達が自然と笑顔になります。子どもが笑顔になるとお母さんも笑顔になります。病棟のスタッフもプレイルームを笑顔でのぞいてくださいませ。笑顔のリレーです。

活動日に病棟へ行くと子ども達がプレイルームで、私達を待っていてくれます。「早く遊ぼう!」と言って駆け寄って来ます。子ども達の笑顔と「また、来てね。」の言葉が、私たちボランティアにとって、一番の原動力なのだと思われられます。

私たちは、ずっとずっと子ども達に笑顔と楽しい時間を届けたいと思っています。

皆様、これからも、どうぞ私たち「たんぽぽの会」にご理解、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

●活動の様子

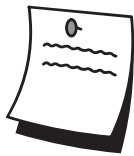


*「たんぽぽの会」ホームページアドレス

<http://fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp/~tanpoponokai/>

熊大病院

掲示板



外来診療日 (各診療科の◎印は「初診」「再診」を行っています。)

平成 21 年 10 月 1 日現在

診療科名	月	火	水	木	金
総合診療部	◎	◎	◎	◎	◎
呼吸器内科	◎	◎	◎	初診のみ	◎
消化器内科	◎	◎	◎	◎	◎
血液内科	◎	特殊再診のみ	◎	特殊再診のみ	◎
膠原病内科	◎	特殊再診のみ	◎	特殊再診のみ	◎
腎臓内科	◎	◎	◎	◎	◎
代謝・内分泌内科	◎	◎	◎	◎	◎
循環器内科	◎	◎	◎	◎	◎
神経内科	◎	◎	◎	◎	◎
心臓血管外科		◎		◎	
呼吸器外科		◎		◎	
消化器外科	◎	◎	◎	◎	◎
乳腺・内分泌外科	◎	◎	◎	初診のみ	◎
小児外科	◎		◎	◎	◎
移植外科	◎		◎	◎	◎
泌尿器科		◎		◎	◎
婦人科	◎	不妊外来	◎	不妊外来	◎
小児科	◎		◎		◎
発達小児科		◎		◎	
産科	◎	不妊外来 生殖医療 カウンセリング	◎	不妊外来	◎
リハビリテーション部		◎		◎	◎
整形外科		◎		◎	◎
皮膚科	◎		◎	◎	◎
形成・再建科			◎	◎	
眼科	◎	◎	特殊再診のみ	◎	特殊再診のみ
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎		◎		◎
歯科口腔外科	◎	◎	◎	◎	◎
画像診断・治療科	◎		◎		◎
放射線治療科	◎	◎	◎	◎	◎
こころの診療科		◎ (要予約)	◎ 再診のみ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)
神経精神科		◎ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)	◎ (要予約)
脳神経外科	◎		◎		◎
麻酔科・緩和ケア	◎		◎		◎

熊大病院は高度医療を提供する「特定機能病院」として厚生労働省から承認されています。地域医療機関との分業を行うため、原則としてかかりつけ医（他の医療機関）の紹介状が必要です。円滑な診療のために紹介状をご持参ください。紹介状がない場合でも受診できますが、初回および再初診の際に「保険外併用療養費（選定療養）」として3,150円（自費、平成21年10月現在）をご負担いただきます。

『このほんよんで』

(熊本市の図書貸し出しサービス)



9月16日、西病棟8階（小児科・発達小児科病棟）に熊本市立図書館から、158冊の本を受け入れました。



この取り組みは、熊本市教育委員会（熊本市立図書館）が、熊本市内の小児科病床を有する公的病院で長期にわたる入院生活を送らなければならない子どもたちの読書活動に関する支援を行うことを目的としたものです。

これらの本は、熊本市立図書館が推薦する「このほんよんで！」というリストに掲載されている図書の中から選ばれた0歳から5歳児向けの本で、貸出とはなっていますが、半永久的に熊大病院に保管されます。

万一、本が破損した場合は、市立図書館の職員が修理も行います。

受け入れ後は、西病棟8階のプレイルームに設置され、入院している子どもたちも、とても喜んでいました。

熊本県肝疾患診療連携ネットワーク講演会



熊大病院は平成21年5月に、厚生労働省ならびに熊本県より「熊本県肝疾患診療連携拠点病院」の認定を受けました。これを機に本院は、熊本県、市町村地域の中核病院、専門医療機関、県医師会の先生方と連携して、「肝疾患診療連携ネットワーク」を構築し、去る10月1日に第1回のネットワーク講演会を開催しました。

講演会では、肝疾患診療レベルの向上と肝臓病に対する正しい知識の普及啓発についての取り組みが紹介されました。また、患者さん代表からは要望や期待が述べられました。さらに鹿児島大学大学院 坪内博仁教授には「ウイルス性肝炎治療の進歩と課題」と題して特別講演を行っていただきました。

ここからは熊大病院が中心となって肝疾患診療ネットワークを円滑に運営し、患者さんが県内のどの地域であっても、肝疾患全般にわたって最適な医療を受けることができるように努力していきたいと考えております。



熊本大学医学部附属病院

〒860-8556

熊本市本庄1丁目1番1号

TEL (096) 344-2111 (代)

FAX (096) 373-5906

<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp>